

# 民俗資料の情報構造モデルの基礎的検討

八重樫 純樹

## 1 はじめに

コンピュータは戦後、主に軍事、産業界、理工学、社会科学関係活動に使用されてきていたが、1970年代から1980年には歴史系人文科学研究の場である博物館にも導入されるに至った。さらに1990年代中頃から世界規模で急速に普及したインターネットはあらゆる分野を巻き込み、現在に至っては、あらゆる分野において情報化活動と無縁では済まなくなっている。このインターネットの急速な普及により、社会は一変し、特に、国際化（グローバルゼーション）が求められ、そしてあらゆる分野の知的活動の社会的情報共有・公開が求められるに至っており、この現象はさらに加速されてくるものとする。

わが国においては1970年代後半から1980年代にかけて国立民俗学博物館、国文学研究資料館、国立歴史民俗博物館等で歴史系人文科学分野の情報化研究が本格的に開始されたが、これら分野におけるコンピュータ応用の主な流れは、各分野の学術資料（あるいは史料）情報の体系的な管理と共有化を目指したデータベース（目録情報および全文情報）であった。しかしながら民俗学分野資料の情報化活動・研究活動は考古学、歴史学等、歴史系人文科学資料情報化活動に比べてあまり活発ではなく、民俗学研究活動そのものにおける本格的取り組みには至っていないとはいえない状況にあるものと認識する。この原因の一つには、民俗学研究者および民俗学関係機関の取り組み姿勢の問題や資金の問題があるかもしれないが、基本的に民俗学はヒトの活動全般が対象であり、極めて研究対象が広すぎ、全体像が見えにくいという点がある。有形資料としての“もの”資料のみでなく、無形資料である“こと”資料までを含んでいる。データベース開発における基本は対象分野や資料情報の、

- ①構造化（情報の枠組みの設定：目録形式：あるいはメタデータ）
- ②それに記述する情報の値（データそのもの）をどうするかである。

ここでは“もの”資料である“民具”を具体的対象として、上記の社会的情報化動向を踏まえて、民俗学データベースのあり方をめざし、民俗学情報の基本的問題点や課題について考察する。

## 2 民俗資料の情報要素

民俗資料は極めて多岐にわたるが、情報化に際して、ヒトが認識する情報のある程度の枠組み（構造化）が必要である。民俗資料情報として以下のようなモードで考える。

- ①【“もの”（有形資料）＋“こと”（無形資料）】＋②民俗文脈（民俗のメッセージ）・（1）

（1）において、ここでは民具が対象であり、①は“もの”資料である。情報として重要な②を解釈する要素としては以下（2）のモードを考える。

- ①ヒト＋②（名称・目的・用途・機能・材料・製法・使用方法・計量）＋③トキ（時間）＋④場（空間）＋⑤文献・（2）

(2) において、

- ・①は“こと”資料の場合特に重要であり、
- ・②は“もの”資料情報の基本であり、
- ・②と④、特に用途・機能は民俗分類の基本情報であり、
- ・③と④は生業・通過儀礼・年中行事情報の基本となり、さらに民俗資料全体、そして関連分野資料との統合化・結合化するための基本情報要素である。
- ・③は資料の生産、利用（あるいは廃棄）される時代、あるいは年代、さらに利用される民俗時間等をさす（5W1Hにおける、“いつ”、“どこで”）。
- ・④は資料の生産地、利用（あるいは廃棄）される地域、さらに利用される民俗空間をさす。

①～⑤をどのように組み合わせ、細分化・分類化するかが、情報の構造化にむけた、大きな課題となる。具体化に向けては、段階化と簡素化が必須であろう。さらに、この中に記述する値（データ）の標準化（民具名称の体系化）が、現在進められている研究であるものと認識する。

### 3 資料分類について

一般に自然科学系資料分野における分類の基準は“種 (Species)”である。わが国の歴史系人文科学分野においては図書館（10進分類法）以外に、絶対的分類基準は存在していない。しかし、博物館等における資料管理に関しては一つのカテゴリでそれぞれの基準で管理されており、分類矛盾と向き合っているのが現実であろう。一つのカテゴリで分類するのは図書館同様に基本的に収蔵庫が一つであり、資料の所在配置が一箇所に限定されるからである。常に矛盾をきたすわけである。そもそもヒトの活動痕跡すべてを一つのカテゴリで分類可能かどうか、2. の課題とも関係するが、大きな課題である。

コンピュータはコピーが得意である。コンピュータによる情報管理に関しては、資料の識別番号の一意性（唯一の値をとる）が保障されさえすれば、複数の収蔵庫による、複数の分類方法が同居可能である。ここについても更に検討を進めたい。

なお、1. で述べたように、インターネットの世界的普及により、国際化・学際化が急速に進みつつあり、他国や近隣の他分野（文化人類学 (HRAF) や博物館資料管理等) の国際的分類基準との整合性も考慮する必要がある。【付録資料 1】として1990年代前半から開始された、韓国の博物館資料の国家標準分類と文化庁民俗分類の比較について示す。特に、9. 用途・機能分類は、文化庁の民俗分類も参考にされており、現在社会における文化庁民俗分類の矛盾を解決している。

## 4 国際化・学際化動向と技術動向

### 4.1 関連分野における国際化動向

図書館分野は1960年代からすでに図書の目録情報の国際標準化を進めてきており (ISBD: International Standard of Bibliography Description)、現在は基本的に世界の図書館ネットワークは完成している。文書館分野は1990年代から国際標準化を開始し (ISAD (G): International Standard of Archival Description (General))、現在、世界中の文書館でその標準記述に取り組んでいる。博物館分野では1990年代後半にかけて、ICOM-CIDOC (The International Committee for Documentation of the International Council of Museum) から国際標準が提案されており、その日本版が2005年に東京国立博物館から博物館資料情報構造化モデルとして提案された (ICOM-CIDOCからは考古学の遺跡データ標準も提案されており、英国の国内遺跡データ管理・共有化に使われている)。

さらに、2000年代に入り、オブジェクト指向データベースを基本とした博物館データベースモデルとしてCRM (Conceptual Reference Model) が提案され、現在は国際規格であるISO認定を受けている。い

ずれ情報発信の国際化となると、避けて通れない関門でもあろう。

なお、筆者は2005年～2007年度にかけて韓国、中国、台湾における博物館等の文化・知識資料情報化動向を調査したが、すべて国家政策のもとで博物館、文書館、図書館資料の情報化に邁進していた（参考文献（12））。

さて、わが国は・・・。

#### 4. 2 学際化動向

現在、国際的に分野を越えた（学際化）連携活動が開始され（博物館（M: Museum）、図書館（L: Library）、文書館（A: Archives）のMLA連携）、すでにEUのサポートで開発されたEuropeanaはサービスを行っており、2010年8月には英国のMLAの横断的情報探査を可能にしたCultural Gridのサービスが開始された。これらの動向も踏まえる必要がある。

また、国内でははじめて国立国会図書館がMLA連携を軸とした、国内情報発信統合化に向けた新事業であるDIR円卓会議（Digital Information Resource Round Table: デジタル情報資源円卓会議）が2010年3月から正式に開始されるに至った。この活動動向も踏まえる必要があろう。

#### 4. 3 技術動向

1990年代後半には、3WCの会議で、世界中で溢れかえったインターネット資源探査のための、分野を問わないインターネット内の情報資源の枠組みの標準化を設定し（RDF: Resource Description Framework）、ネットワーク情報資源（ホームページ等）探査のため、15項目からなる目録情報（メタデータ）の国際標準化が決定された（Simple Dublin Core Meta Data Set）。

これらメタデータおよびRDFの動向に関しては、神奈川大学21世紀COE研究活動で、神奈川大学工学部の木下宏揚教授グループが紹介し、かつ、民具を対象に、民具オントロジー構築の研究を進めた（参考文献（7）、（8）、（10）、（13））。4.1で述べたCRMもRDFをベースにしており、今後の大きな参考となろう。

### 5 最後に

以上、国際化・学際化動向を踏まえる必要があり、世界の情報資源は分野を問わず、横断的に統合化されてゆく動向にある。民具情報は文化・知識情報資源の一種ではあるが、民具資料のみに限定せず、民俗資料全般と、特に関連してくる文化人類学関係資料、博物館資料等との横断化は必須事項となっており、情報整合性も考慮すべき時代に至っている。

しかし、民俗資料の情報化研究は蓄積が少なく、端緒についたばかりといえるような状況である。筆者が考古学資料の一つである縄文時代土偶のデータベース開発の情報構造設計は1982年より開始し、月1度の研究会を通して、約5年の歳月を要した。具体的構築活動は1987年からであり、1995年に公開し、8年を要した。収集情報をベースとした考古学としての研究成果（全国の土偶の系譜と分布）がまとまったのは2000年2月であった。

はじめにも述べたように、民俗資料は極めて多岐に渡り、情報要素も多い。実現にむけては、まず、全体像を段階的に捉えてゆく必要があり、構築にむけては情報の簡素化が必須であろう。さらに従来から民俗学分野で使用されてきている文化庁民俗分類についても古い時代の定義であり、曖昧な定義も存在し、現在に至っては矛盾も多い。情報化に向けては、再検討が必要であるように感じているが、いかがであろうか。

なお、はじめに述べたが、20年前では考えられない程、情報化のための社会インフラが整備され、か

つ、4.3 で述べたように世界は分野を問わず情報資源の融合化に向かっている。しかし民俗学研究活動においてデータベース等の資料情報化整備は遅々としている。前述の土偶データベースの開発においては、多くの考古学研究者との長年に渡る継続的な協働作業が必須であった。情報発信の協働作業として SNS (Social Network System) が社会普及しつつあるが、研究資料情報は、基本的に研究者が成果を公開するまでは個別に管理する必要がある。このために現在、静岡大学大学院の伊藤武司君がマイクロソフト社の Excel と公開 GIS を融合開発した資料情報を個人管理可能なデータベース協働製作システムの説明図を【付録資料 2】に添付する。応用を試みていただければ幸いである。

[参考文献]

- (1) 八重樫純樹：「民謡のデータ構造に関する基礎的考察」、昭和 62 年度～63 年度文部省科学研究費補助金総合研究『民謡の分類法とそのデータベース化に関する総合研究』（代表：国立歴史民俗博物館教授小島美子、課題番号：62301042）研究成果報告書、pp. 69～80、pp. 91～102、1988 年 3 月
- (2) 八重樫純樹、倉田是：「事例データをもととした情報検索実験といくつかの課題」、『国立歴史民俗博物館研究報告』第 30 集、pp. 207～248、1991 年 3 月
- (3) 八重樫純樹：「歴史系支援情報処理研究の基礎的課題」、情報知識学会誌、Vol.2,N01,pp. 9～12、1991 年 12 月
- (4) 八重樫純樹：「歴史系資料・事象情報化に関する研究～その経緯と基礎的課題～」、国立歴史民俗博物館研究報告』第 50 集、pp. 461～482、1993 年 2 月
- (5) 八重樫純樹、倉田是：「事例をもととした歴史系資料情報化に関する研究」、国立歴史民俗博物館研究報告』第 53 集、pp. 279～319、1993 年 11 月
- (6) 亦野あゆみ：「民俗資料のデータベース化に関する基礎研究」、神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科歴史民俗資料学専攻修士論文、p. 47、1998 年 1 月提出
- (7) 木下宏揚：「電子図書館と情報セキュリティ」、『神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推進会議』第 1 号、pp. 188～194、2004 年 3 月
- (8) 木下宏揚、能登正人：「民俗学のための情報発信」、『神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推進会議』第 3 号、pp. 41～95、2004 年 3 月
- (9) 吉村裕一、八重樫純樹：「民具資料のデータベース化に関する一考察」、静岡大学情報学研究誌、第 11 巻、pp. 59～69、2006 年 3 月
- (10) 能登正人、木下宏揚：「オントロジー理論に基づく非文字資料のデータ化可能性の検討」、『非文字資料とは何か～人類文化記憶と記録～神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推進会議』、pp. 150～162、2006 年 6 月
- (11) 吉村裕一：「民俗資料の情報化に関する研究」、神奈川大学歴史民俗資料学研究科歴史民俗学専攻修士論文、p. 58、2007 年 1 月提出
- (12) 八重樫純樹：「知識情報資源基盤と横断的アーカイブズ論研究会」、『明日の図書館情報学を拓く』、樹村房、pp. 72～89、2007 年 3 月
- (13) 木下宏揚：「民俗学研究のための情報発信」、『神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推進会議』第 4 号、pp. 16～52、2008 年 3 月
- (14) 山野邊溪、八重樫純樹：「祭りデータベースの研究調査」、情報知識学会誌、Vol20,N01、pp. 221～226、2010 年 4 月

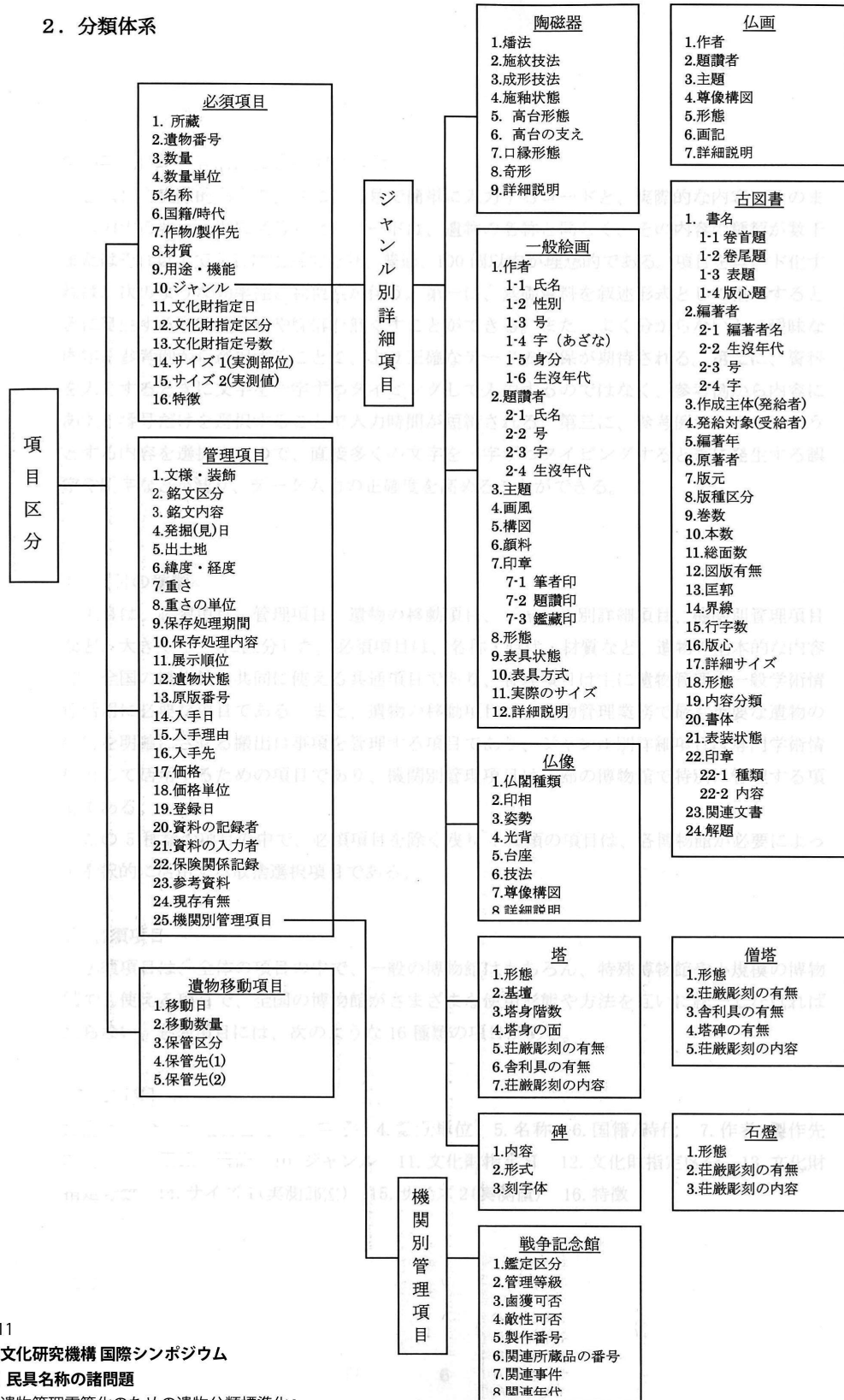


【付録資料 1】

[1] 韓国「博物館遺物管理電算化のための遺物分類標準化」(2003年12月版)の紹介(訳:林淑姫氏による)

I. 分類体系概要 (2. 分類体系 を参照)

2. 分類体系



2010.12.11

国際常民文化研究機構 国際シンポジウム

session 1 民具名称の諸問題

『博物館遺物管理電算化のための遺物分類標準化』

韓国/国立中央博物館,2003

II. 必須項目（16項目）：韓国における全国博物館共通項目

1. 所蔵（大分類、中分類、小分類）

【大分類】

01 国立、02 国立（001 民俗）、03 公立、04 法人・私立、05 学校、06 その他、07 外国

2. 遺物番号（主番号（6バイト）、詳細番号（3バイト））

3. 数量（主数量（6バイト）、副数量（6バイト））

4. 数量単位（1段階コード化（2バイト））

01 点、02 括、03 組、04 冊、05 隻、06 連、07 拾、08 ツール（型）、09 帖、10 種、11 軸

5. 名称

第一有形（銘文＋材質＋色合い＋技法＋文様＋付加物＋形態＋機種（用途））

土器、金属品、馬具、銅鏡、陶磁器、文房具、木漆工芸、瓦タン、武器利器など

第二有形（元所蔵＋銘文＋現所蔵先＋固有名詞化された名称＋材質＋機種（用途））

銅鐘、金庫

第三有形（元所蔵先（寺院）＋形態＋材質＋塔の固有名称）

塔婆（浮図）、碑

第四有形（銘文＋材質＋主題＋形態）

仏像

第五有形（作者＋主題（タイトル、内容））

絵画、書道、書籍

第六有形（土用、土偶＋形態（主題））

土用、土偶

第七有形（固有名詞）

民俗品、服飾

6. 国籍／時代（世界を対象）

大分類（韓国外務省6大洲別修交国家分類：国籍（2バイト））、中分類（国籍別時代（2バイト））、

小分類（絶対年度）

7. 製作／製作先（20バイト）

8. 材質（主材料（1次）、副材料（2次）、副材料（3次）：全材質を記述する）

【主材質】

01 金属、02 土製、03 陶磁器、04 石、05 ガラス・宝石、06 草製、07 木、08 骨角貝甲、09 紙、10 毛

皮、11 糸織、12 種子、13 鉱物、14 化石、99 他

9. 用途・機能（4段階コード化：2バイト）

【大分類→中分類】

01 衣→01 冠帽、02 衣類、03 帯・鉤、04 履物、05 装身具、06 冠・服函、90 関連図書、99 その他

02 食→01 飲食器、02 炊事、03 加工、90 関連図書、99 その他

03 住→01 建築物、02 建築部材、03 生活用品

04 産業・生業→01 先史生活、02 農業、03 漁業、04 林業、05 畜産、06 養蚕蜂、07 鉱業、08 狩猟、

09 工業、10 商業、90 関連図書、99 その他

05 交通・通信→01 交通運搬、02 馬具、03 車付属具、04 通信、05 信号、90 関連図書、99 その他

06 科学技術→01 天文、02 地理、03 医療、04 印刷、05 印章、06 板類、99 その他

07 社会生活→01 儀礼生活、02 社会制度、03 記念、04 儀典、05 社会運動、99 その他

- 08 宗教信仰→01 仏教、02 儒教、03 民間信仰、04 基督教、99 その他  
 09 文化芸術→01 文献、02 音楽、03 書画、04 彫刻、05 工芸、06 舞踊・劇、07 遊び、99 その他  
 10 軍事→01 筋力武器、02 火薬武器、03 装備、04 服飾、05 標識制式、06 旗幟、07 文書・書籍、99  
 その他  
 99 その他→01 資料、02 模型、03 用途不明、04 定期刊行物、他の図書、99 その他
10. ジャンル（2段階分類）  
 【大分類→中分類】  
 01 先史・古代→99 その他  
 02 古美術国学→01 陶磁器、02 一般絵画、03 仏像、04 仏画、05 古図書、06 塔、07 僧塔、08 碑、  
 09 石灯、99 その他  
 03 民俗品→99 民俗品  
 99 その他
11. 文化財指定日（年（4バイト）、月（2バイト）、日（2バイト））  
 12. 文化財指定区分（1段階コード化（2バイト））  
 【大分類】  
 01 国宝、02 宝物、03 重要民俗、04 市指定、05 道指定、06 他の指定
13. 文化財指定号数（非コード（5バイト））  
 14. サイズ（1段階コード化（2バイト））  
 【大分類】  
 01 口縁径、02 内径、03 直径、04 穴径、05 胴径、06 底外形、07 底内径、08 最大径、09 台径、10  
 蓋径、11 長さ、12 総長さ、13 現在長さ、14 袋長さ、15 横、16 縦、16 幅、18 横幅、19 層幅、20  
 高さ、21 総高、22 現在高さ、23 蓋高、24 厚さ、25 仏身高、26 頭高、27 肩幅、28 膝幅、29 光背  
 幅、30 台座高、31 台座幅、32 ファジヤン（チョゴリの袖長さ）、33 背長、34 身幅、35 胴周り、  
 36 現在径、37、38 現在厚さ、39 軸長、40 高台高 41 周縁幅、42 周縁厚さ、43 軸高、44 現在幅、  
 45 台座径、46 子房径、47 子房高、48 チンドン（チョゴリの肩から脇までの幅）、49 マルギ幅（チ  
 マヤパジの腰の部分にめぐらした帯状の布幅）、50 紐幅、51 紐長、52 足長
15. サイズ2（数値（30バイト））  
 16. 特徴（非コード（400バイト：200字原稿用紙一枚分））  
 割れ目・破損・腐食・変色・色焼け等、遺物状態とともに、特徴的な内容
- Ⅲ. 管理項目（25項目）  
 IV. 移動項目（5項目）  
 V. ジャンル別項目（資料1参照）  
 陶磁器（9項目）、一般絵画（12項目）、仏像（8項目）、仏画（7項目）、古図書（24項目）、塔（7項  
 目）、僧塔（5項目）、碑（3項目）、石燈（3項目）

[2] 【文化庁民俗分類】

010. 衣食住  
 020. 生産・生業  
 030. 交通・運輸・通信  
 040. 交通・交易  
 050. 社会生活

- 060. 信仰・年中行事
- 070. 民俗知識
- 080. 民俗芸能
- 090. 競技・娯楽・遊戯
- 100. ヒトの一生
- 110. 年中行事
- 120. 口頭伝承

[3] 「全国方言辞典」(東条操氏編)より

【大項目分類】

01 衣、02 食、03 住、04 農具、05 遊戯・競技、06 筥・籠、07 運搬具、08 漁業、09 船、10 桶、11 紡織、12 その他産業、13 農業、14 信仰、15 狩猟、16 書、17 牛馬、18 商業、19 人生儀礼、20 年中行事、21 社会生活、22 養蚕、99 その他

[4] 【韓国分類標準(項目9. 用途・機能)】との比較】

I. 文化庁民俗分類との比較

- ①大分類の“民俗知識”のカテゴリーが明確でない。
- ②大分類の“交易”は、大分類“生業”における小分類の“商業”では、
- ③“科学技術”の分類項目なし。
- ④“人生儀礼”、“年中行事”→“社会生活”

II. 「全国方言辞典」との比較

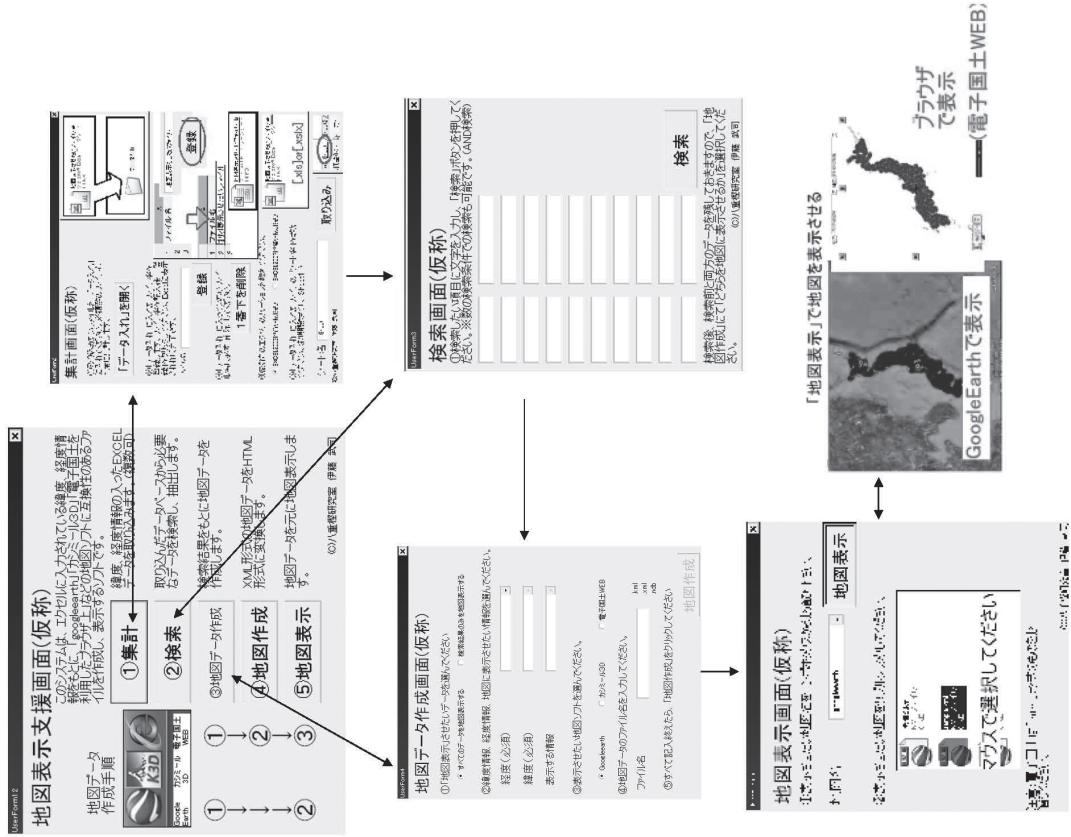
「全国方言辞典」と「韓国分類標準(項目9:用途・機能)】との比較

- ①05 遊戯・競技→文化芸術
- ②07 運搬具→運輸・通信 ([3]には通信なし)
- ③“科学技術”の分類項目なし
- ④“養蜂”の項目なし
- ⑤19 人生儀礼(通過儀礼)→“社会生活”
- ⑥20 年中行事→“社会生活”



【付録資料 2】

地図表示システム遷移図



データベース支援システム遷移図

本システムは、Microsoft Excel を利用した、データベース支援ソフトです。表計算ソフトである Excel をデータベースに見立て、地図表示、画像検索、データ登録の簡略化をすることが出来ます。

データベース支援システム(仮称)

①データベース支援画面(仮称) ②検索 ③地図データ作成 ④地図作成 ⑤地図表示

データベース支援画面(仮称)

①データベース支援画面(仮称) ②検索 ③地図データ作成 ④地図作成 ⑤地図表示

データベース支援画面(仮称)

①データベース支援画面(仮称) ②検索 ③地図データ作成 ④地図作成 ⑤地図表示

画像関連支援画面

画像関連支援画面(仮称)

①画像をEXCELに登録する ②画像に付与されるデータを登録する ③画像を含めたデータを見る

画像登録

データ登録

地図表示支援画面

地図表示支援画面(仮称)

①集計 ②検索 ③地図データ作成 ④地図作成 ⑤地図表示

地図表示支援画面(仮称)

①集計 ②検索 ③地図データ作成 ④地図作成 ⑤地図表示

機能概要

1. メイン画面  
データベース支援システム起動時にこの画面が表示され、各々の支援フォームへ移動できる。
2. 地図表示画面  
緯度経度情報があれば、様々な地図ソフトとの連携が可能。そのほか、簡易検索、簡易集計も可能。
3. データ入力画面  
重複データを1度入力しておけば、自動的に書き込んでくれる機能。
4. 画像関連支援画面  
画像を登録すると、画像データベースとして見ることが出来る機能。

## 地図表示システム全体説明

UserForm12

### 地図表示支援画面(仮称)

このシステムは、エクセルに入力されている緯度、経度情報をもとに、「googleearth」から「3D」電子国土を利用したブラウザ上などの地図ソフトに互換性のあるファイルを作成し、表示するソフトです。

緯度、経度情報の入ったEXCELデータを取得いたします。(複数可)

取り込んだデータベースから必要なデータを検索し、抽出します。

検索結果をもとに地図データを作成します。

XML形式の地図データをHTML形式に変換します。

地図データを元に地図表示します。

©八重樫研究室 伊藤 武司

## ① 集計

複数個のエクセルファイルを1度に取り込みます。複数人でデータベースを構築するなど有効な機能です。

## ② 検索

検索を容易にお手伝いする機能です。取り込んだデータベースから必要なデータを検索し、抽出します。

## ③ 地図データ作成

グーグルアース、電子国土WEB等の無料地図ソフトに表示できるように、地図のデータを作成します。その際、緯度経度情報を必要とします。

## ④ 地図作成

電子国土WEBを扱う場合、ブラウザに顯示させる文字を決めることができます。ブラウザとは、インターネット、エクスプローラ (IE) などに代表される、インターネットを扱うためのシステムのことです。

## ⑤ 地図表示

地図ソフトを起動し、③で作成した地図データを表示させます。

## 画像登録支援システム遷移図

UserForm10

### 画像関連画面(仮称)

① 画像をEXCELに登録する  
② 画像に付与させるデータを登録する  
③ 画像を含めたデータを見る

データを見る

UserForm11

### 画像登録画面(仮称)

1. 画像を、入力したいセルを選択し、画像登録ボタンを押してください。

2. 画像を入力したいセルを選択し、画像登録ボタンを押してください。

① 画像を含めたデータを見る

② 画像を入力したいセルを選択し、画像登録ボタンを押してください。

③ 画像を含めたデータを見る

©八重樫研究室 伊藤 武司

UserForm12

### 画像表示データ入力画面(仮称)

① 何行目から、登録した画像データがありますか？ご記入ください。  
何行目

② 何行目に、表示したいデータがありますか？4つまで記入ください。  
何行目 何行目 何行目 何行目

③ 上記をすでに登録している場合は、「すでに登録済」をクリックしてください。

©八重樫研究室 伊藤 武司

データ入力支援システム遷移図

- ・メイン画面

画像登録支援システム全体説明

UserForm10

### 画像関連画面(仮称)

- ① 画像をEXCELに登録する
- ② 画像に付与させるデータを登録する
- ③ 画像を含めたデータを見る

**画像登録**

**データ登録**

データを見る

このシステムは、「画像」を扱いつづかいエグゼセルでも、画像データデータベースを容易に使えるようにしたシステムです。

① 画像登録

画像データの存在している場所のパスを入力します。

② データ登録

画像データベースを表示する際、画像に付与するデータを登録しておきます。

③ データを見る

画像データベースを見る事が出来ます。

UserForm13

### データ入力支援(仮称)

- ① あらかじめデータを入力しておくことで、それ以降、重複データがあった場合に、手間を省きます。
- ② 重複しているデータの行数が下記で正しい場合は、「実行」を押してください、重複データが自動的に入力されます。

※注意※1度「完了」を押してしまうと、もともとない場合もあるので、保存してから実行してください。

「集計画面」の  列目から重複している

**実行**

UserForm14

### 重複データ登録(仮称)

下記のように、重複データを何度も入力する手間を省きます。

A		B	
大学名	住所	大学名	住所
1 東京大学	東京都文京区本郷7-3-1	1 東京大学	東京都文京区本郷7-3-1
2 北海道大学	札幌市北区北条町5丁目	2 北海道大学	札幌市北区北条町5丁目
3 横国国立大学	横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1	3 横国国立大学	横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1
4 金沢大学	金沢市角間町	4 金沢大学	金沢市角間町
5 新潟大学	新潟市中央区2-26	5 新潟大学	新潟市中央区2-26
6 名大	名古屋市千種区千種	6 名大	名古屋市千種区千種
7 名大	名古屋市千種区千種	7 名大	名古屋市千種区千種
8 名大	名古屋市千種区千種	8 名大	名古屋市千種区千種
9 名大	名古屋市千種区千種	9 名大	名古屋市千種区千種

**集計画面**

A		B	
大学名	住所	大学名	住所
1 東京大学	東京都文京区本郷7-3-1	1 東京大学	東京都文京区本郷7-3-1
2 東京大学	東京都文京区本郷7-3-1	2 東京大学	東京都文京区本郷7-3-1
3 東京大学	東京都文京区本郷7-3-1	3 東京大学	東京都文京区本郷7-3-1
4 東京大学	東京都文京区本郷7-3-1	4 東京大学	東京都文京区本郷7-3-1
5 東京大学	東京都文京区本郷7-3-1	5 東京大学	東京都文京区本郷7-3-1
6 東京大学	東京都文京区本郷7-3-1	6 東京大学	東京都文京区本郷7-3-1
7 東京大学	東京都文京区本郷7-3-1	7 東京大学	東京都文京区本郷7-3-1

**重複データ**

①「重複データ」シートに、重複データをあらかじめ記入ください。  
 ②重複箇所は「集計画面」の何列目から始まっていますか？  
 例)上記の場合は、A列目なので、「1列目」ということになる

登録

## データ入力支援システム全体説明

User Form 3

### データ入力支援(仮称)

①あらかじめデータを入力しておくことで、それ以降、重複データがあった場合に、手間を省きます。

### 重複データ登録

②重複しているデータの行数が下記で正しいときは、「実行」を押してください。重複データが自動的に入力されます。

※注意※1度「完了」を押してしまうと、もう戻すことができません。必ず確認してから実行してください。

「集計画面の」  列目から重複している

**実行**

このシステムは、1度入力しておいたデータならば、クリックひとつで何度も打ち直す手間を省くシステムです。そのためにはまず、重複データを登録しておいていただき、その後、その重複データは何行目から入力していただくと、システムが作動します。

### ① 重複データ登録

重複データの箇所をあらかじめ登録しておきます。

### ② 実行

システムを実行します。

A		B	
大学名	住所	大学名	住所
1 東京大学		1 東京大学	文京区本郷7-3-1
2 東京大学		2 東京大学	文京区本郷7-3-1
3 東京大学		3 北海道大学	札幌市北区北10条西5丁目
4 東京大学		4 横浜国立大学	横浜市中区土名谷常盤台79-1
5 東京大学		5 金沢大学	金沢市角間町
6 東京大学		6 静岡大学	静岡市大谷8306
7 東京大学		7 名北陸大学	名北陸市千種区大森町
8 東京大学			
9 東京大学			
10 東京大学			

**集計画面**      **重複データ**

A		B	
大学名	住所	大学名	住所
1 東京大学	文京区本郷7-3-1	1 東京大学	文京区本郷7-3-1
2 東京大学	文京区本郷7-3-1	2 東京大学	文京区本郷7-3-1
3 東京大学	文京区本郷7-3-1	3 東京大学	文京区本郷7-3-1
4 東京大学	文京区本郷7-3-1	4 東京大学	文京区本郷7-3-1
5 東京大学	文京区本郷7-3-1	5 東京大学	文京区本郷7-3-1
6 東京大学	文京区本郷7-3-1	6 東京大学	文京区本郷7-3-1
7 東京大学	文京区本郷7-3-1	7 東京大学	文京区本郷7-3-1

**実行後**      **結果**